平成２３年５月

平成22年

近畿地区の造船業・舶用工業の現況

近畿運輸局海事振興部

Ⅰ．造 船 業

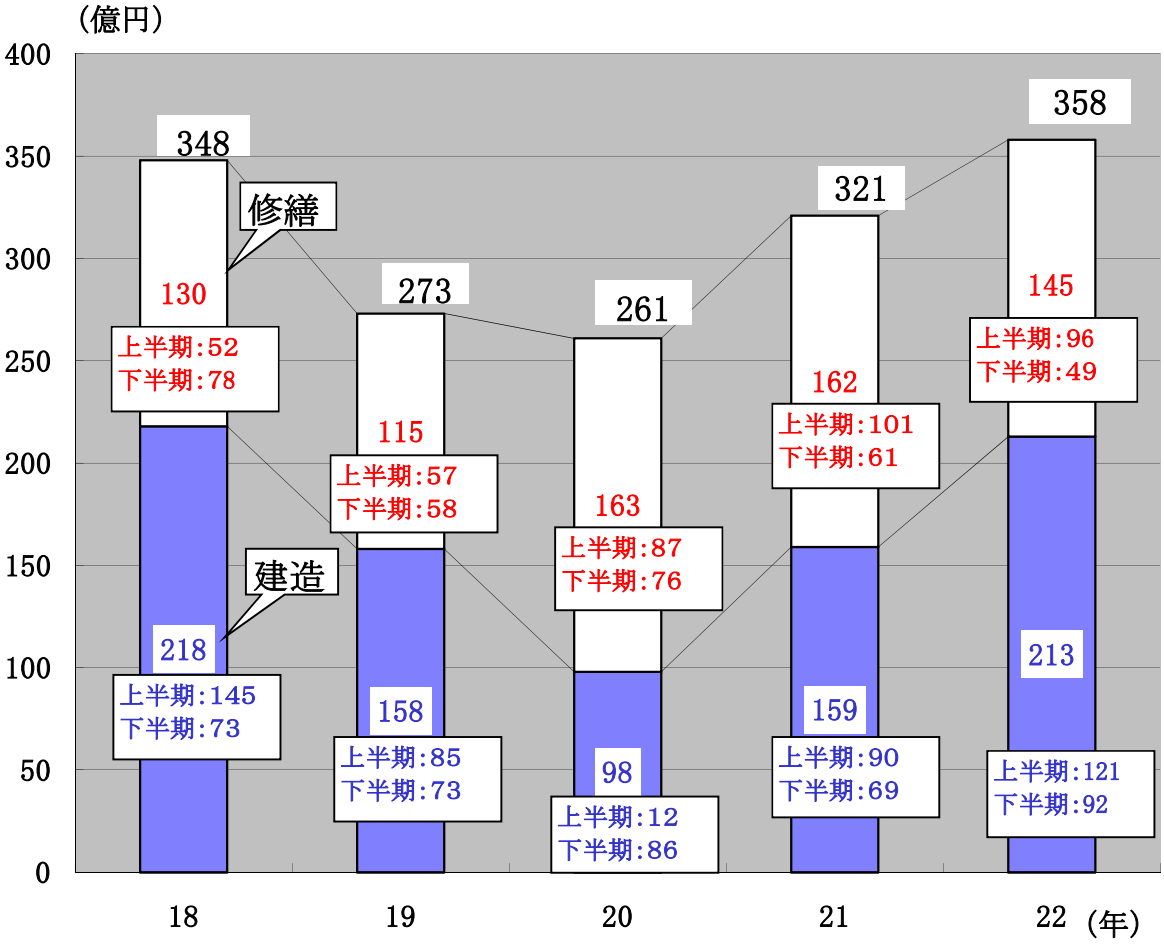
1．造 船 業 の 概 要

管内の造船事業者は、平成23年4月1日現在で58社61工場です。（大半が修繕業を主とした小型造船所）

平成22年の総売上高（建造及び修繕の合計）は358億円で、修繕の売上げが落ち込んだものの、建造の売上げが伸びたため結果的に前年比で111．5%となり、前年の売上げを上回る実績となりました。

なお、建造及び修繕の各々の売上高の前年比は、建造で134．0%、修繕で89．5%となりました。

図Ⅰ－１　総 売 上 高 の 推 移



※20トン未満及び長さ15m未満の船舶の実績についても計上
※総トン数を有しない船舶（艦艇等）の実績についても計上

本資料では近畿運輸局管内（大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県）の実績を示している。
（兵庫県については神戸運輸監理部が管轄）

2. 建 造 実 績

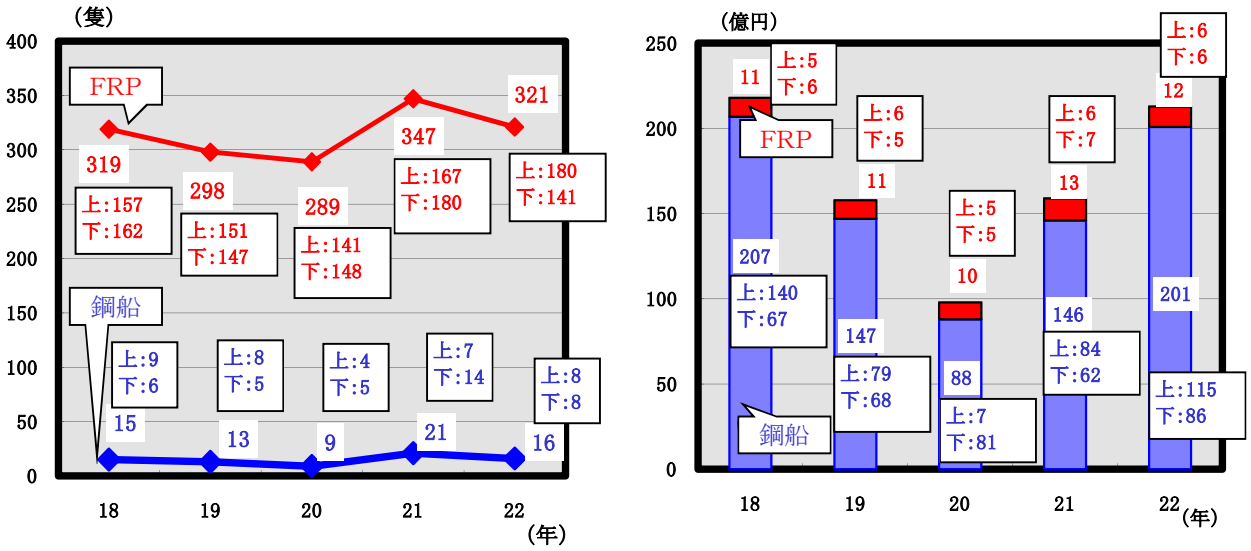
平成22年の建造実績は、337隻、213億円で、前年と比べると隻数で91．6%、売上高で134．0%と、隻数は減少したが売上高は増加しました。

鋼船の内訳は、大型※貨物船が5隻で、その他11隻でした。

FRPの内訳は、漁船が1隻で、それ以外の320隻すべてが救命艇によるものでした。

※総トン数2，500トン又は長さ90m以上の船舶

図Ⅰ－２ 建造隻数及び売上高の推移



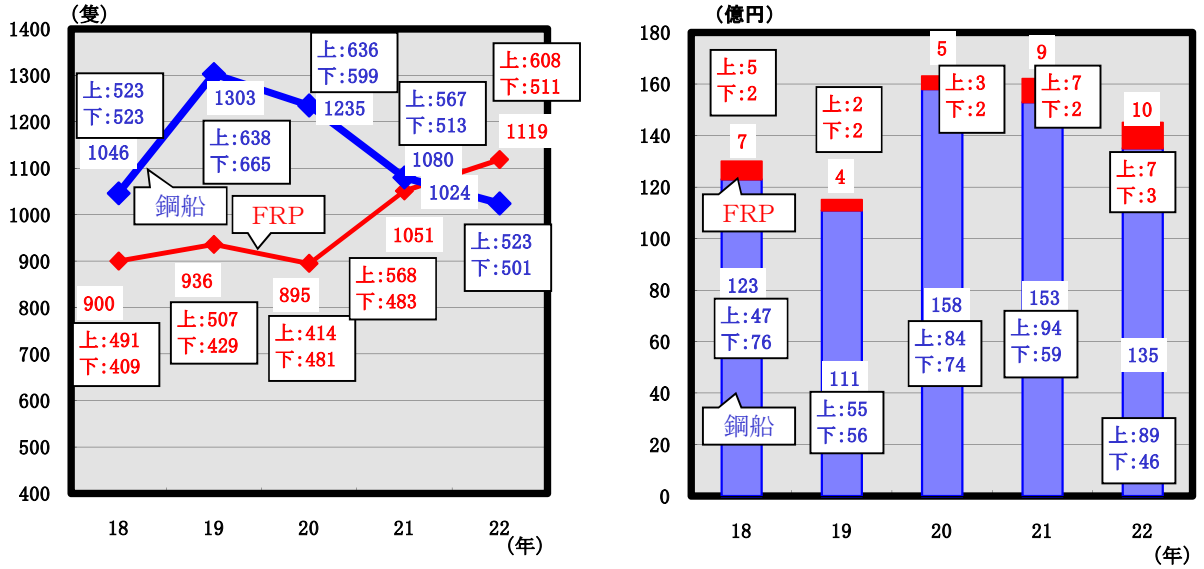
※FRPの数字については木船も含む

3. 修 繕 実 績

平成22年の修繕実績は、2143隻、145億円で、前年と比べると、隻数で 100．6%と増加し、売上高で89．5%と減少しました。

内訳としてはFRPは1119隻、10億円（前年比106．5%、111．1%）で、鋼船は1024隻、135億円（前年比94．8%、88．2%）でした。

図Ⅰ－３ 修繕隻数及び売上高の推移



※FRPの数字については木船も含む

Ⅱ. 舶 用 工 業

1. 舶 用 工 業 の 概 要

管内の舶用工業事業者は、平成23年4月1日現在で143社145工場です。

平成22年の総生産高（生産及び修繕の合計）は1，000億円で、修繕高は前年と同額であったが、生産高が減少したため結果的に対前年比で92．9％となり、前年を下回る実績となりました。

2. 生 産 実 績

平成22年の生産高は956億円（前年比92．7％）で、前年に比べ部分品・附属品、軸系及びプロペラが増加したものの、舶用内燃機関、ぎ装品、航海用機器、舶用補助機械、舶用ボイラ及び係船・荷役機械が減少しました。

品目別で見ると、舶用内燃機関が296億円と最も多く、次いで、ぎ装品が209億円、部分品・附属品が200億円、舶用補助機械が108億円となっており、これら4品目で全体の約85％を占めています。

図Ⅱ－１ 生 産 高 の 推 移

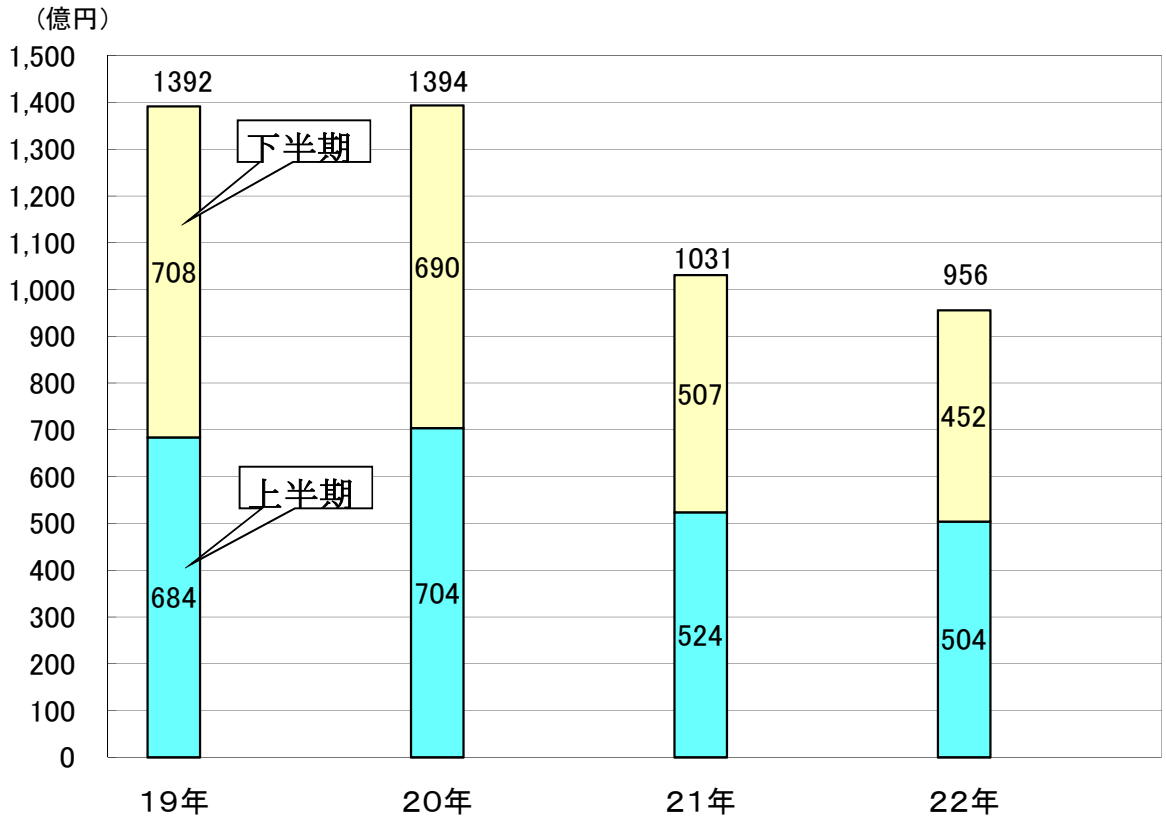
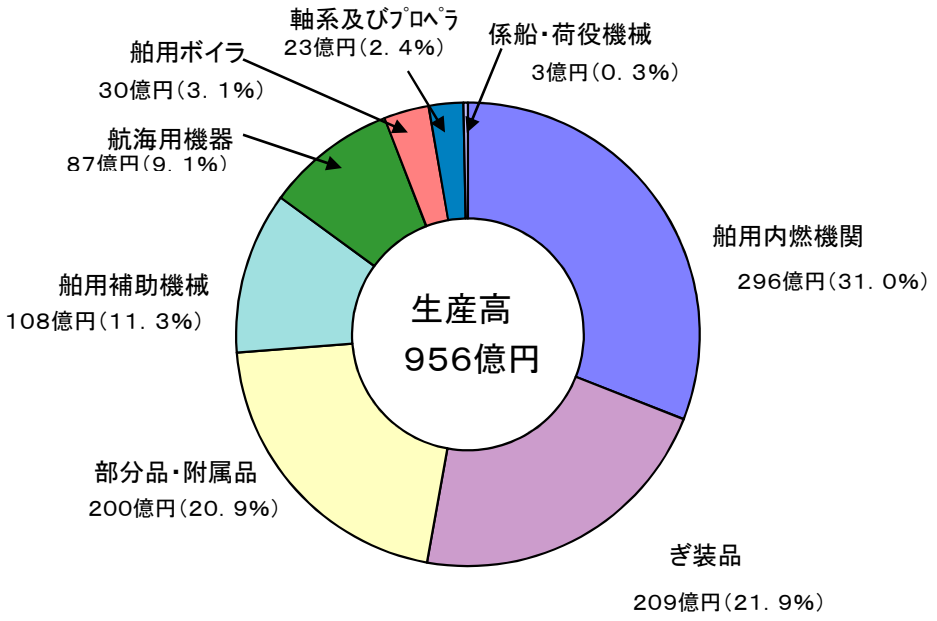


図 Ⅱ－２　品目別生産高及び構成比



3. 修 繕 実 績

平成22年の修繕高は44億円で、対前年比と同額でした。

品目別で見ると、舶用内燃機関が22．3億円、舶用補助機械が18．9億円となっており、この2品目で修繕高の94%を占めています。

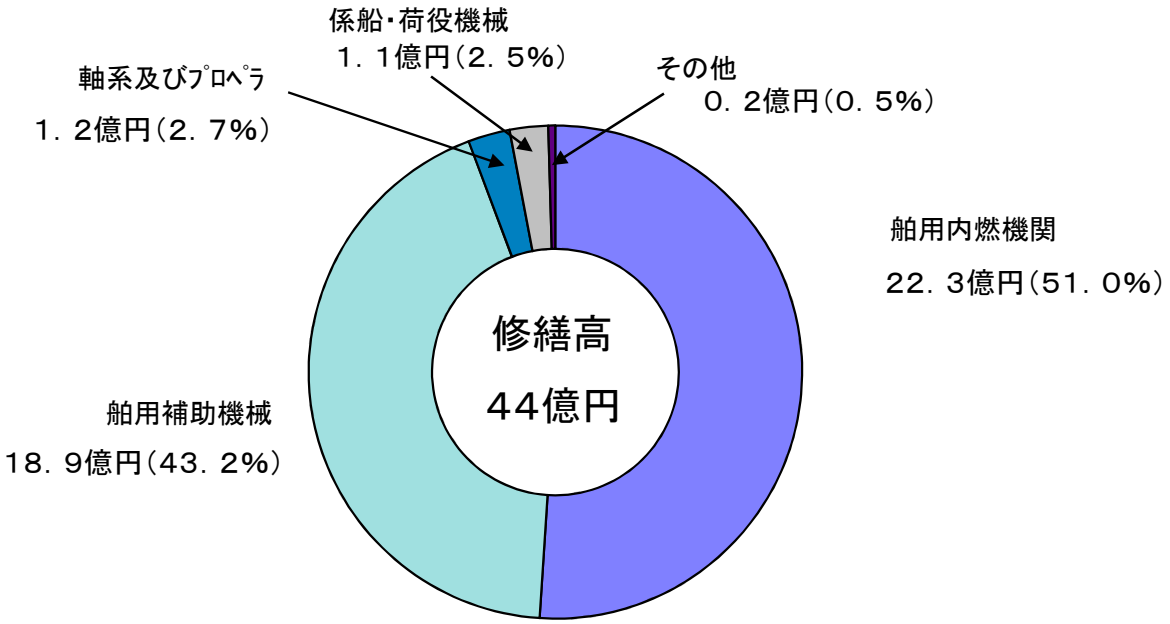



図 Ⅱ－３　品目別修繕高及び構成比